

メッセージアウトライン

I 歴代誌 4 : 9 ~ 10 「ヤベツの祈り」

[9] 「ヤベツは彼の兄弟たちよりも重んじられた。彼の母は、『私が悲しみのうちにこの子を産んだから』と言って、彼にヤベツという名をつけた。」

「ヤベツ」と言う言葉はヘブル語で「痛み」、あるいは「悲しみ」を意味する。彼が生まれた時に彼の母は何らかの原因で非常な悲しみの中にあっただと思われる。ヤベツはそのような背景を持って人生をスタートしなければならなかった。聖書の時代には人とその名前とは密接に関わっており、名前はその子が将来なってもらいたいという願いを込めてつけられた。それゆえ「悲しみ」を意味するヤベツと言う名前は、彼の将来にとって明るい予告ではなかった。しかし、そのような環境にありながら、ヤベツはその状態に甘んじることを拒んだのである。

彼は先祖たちを奴隷から解放し、圧倒的に強い敵を打ち負かし、豊かな土地に住まわせてくださったイスラエルの神に望みを置くようになった。彼は奇跡と新しい始まりを与えてくださるこの神を信じ、神にかけたのである。

そして彼は求めた。彼は自分の生い立ちから考えて、もっとも調和しないことを祈った。

[10] 「私を大いに祝福し(てください)」。 「祝福」…神の与えてくださる超自然な恩恵。神だけが知り、神だけがくださることのできる素晴らしい、良きもの。

しかし、ここで注意すべきことは、ヤベツはいつ、どこで、どのような方法で、どのような祝福をいただくかについてはすべて神にまかせているという点である。

これは自分の利益や快適な生活のために、神を利用しようとする思いとは全く違うものである。→マタイ 6 : 33

「私の地境を広げてください」。 当時はイスラエルがカナンの地を征服し、それが各部族に分割されたころだった。ヤベツに与えられた土地は狭かったのであろう。神が与えてくださった広い領地で生きて働くことによって、より多くの人々や、より多くの世界に影響を与えることができ、それによって神の素晴らしさを指し示すことができる。現代の私たちにしてみれば、それは私たちに与えられている仕事や影響力といったものかもしれない。

全能の神は平凡な、あるいは人よりいくらか劣っているかもしれないようなものをも用いて素晴らしいみわざをなすことができになる。

私たちが単純な、しかし真実な信仰をもって神に祝福を祈り求めていくなれば、神はたしかにそれに豊かに答えてくださることができるお方なのである。

この新しい年、私たちはこのヤベツの祈りに親しみ、神から豊かに祝福をいただき、よりいっそう神を喜び、神をほめたたえる者になりたい。